

中央大学 2026 年度一般選抜【出題の意図】

試験日：2026 年 2 月 14 日

学 部：経済学部 I

科 目：日本史

※本件についての質問・照会には、個別に回答することはいたしません。

出題にあたっては、歴史総合、日本史探究の範囲における、①歴史的事象の基礎的な知識を習得しているか、②それらの知識の関係や論理を理解しているか、③史資料を適切に分析・解釈できるか、を意識しています。歴史は暗記であるという誤解を助長しないよう、歴史の深い学習に誘うような出題を心がけています。

大問 I は、〔A〕〔B〕のパートでは、仏教やそれに関連する文化の諸事項を問い、〔C〕のパートでは、「若狭国太良庄百姓等申状」（東寺百合文書）を素材として、史料の読み取りの技能や南北朝の政治史の理解を問いました。出題にあたっては、マークシートを用いた多肢選択式という出題形式の中で、単なる知識量に止まらない、多角的な力を測れるように心がけました。

大問 II の前半は、江戸時代の農村社会の変化について問う問題で構成されています。江戸時代の百姓の生活基盤がどのように変化していったかについて、村を行政単位とした統治の仕組みや、商品経済の浸透と農村の分化、度重なる飢饉などの影響による農村の疲弊と社会不安の増大という変化を理解しているかを問うています。後半は、『ジェンダーから見た日本史』を引用したリード文を用いて、文化史の理解を問う問題としました。浮世絵、歌舞伎、狂歌などを取り上げ、主に 18 世紀半ばから 19 世紀の初頭における社会の変化と文化への関連について意識してもらうことを意図しました。

大問 III は、主に明治期における日本と海外との関係について問うものです。当時の日本が西欧諸国とどのような関係にあったか、西欧からもたらされた知識・経験・技術等が当時の日本の近代化にどのような影響を及ぼしたかについて考えてもらうことを企図しています。

大問 IV は、歴史総合の分野からの出題です。リード文には永吉希久子『移民と日本社会』（2020 年）を引用しました。16 世紀からの奴隷貿易やアメリカ大陸植民を含めた近世期からの人々の世界的な移動の流れにも触れながら、主に 19 世紀から第二次世界大戦までの近代における移民の時代が人々の経済活動とどのように結びついてきたかに関する知識を問うものです。

以上